

令和3年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の令和元年8月号（第72巻第8号）から令和3年7月号（第74巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は令和3年度獣医学術学会年次大会において発表された地区学会長賞の中から、「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から選考委員会において厳正に審査され、以下のとおり受賞者及び受賞研究業績を選考した。また、後日、本賞（賞状）及び協賛会社（日本全薬工業(株)、共立製薬(株)、日本ハム(株)）からの副賞（研究奨励金20万円）がそれぞれ受賞者に授与される（令和3年度の獣医学術賞の発表は、令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会において実施された。）。

令和3年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

全身皮下気腫を呈し死亡した子牛からの
Paeniclostridium sordellii の分離

大橋郁代（山形県中央家畜保健衛生所）、他
〔選考理由〕 本論文は、重度の全身性皮下気腫を伴った子牛の急死例から分離された *Paeniclostridium sordellii* について詳細な検索を行い、病態解明を試みたものである。病原性遺伝子 (*tcsL*, *tcsH*, *nanH*) の保有状況は気腫が見られない症例由来のものとは違がなく、系統解析によって特定の系統に属するものでなく、薬剤感受性試験によってペニシリンに高い感受性があることを明らかにし、気腫の発生に宿主や飼養環境の要因が関与することを示したものであることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

CSF ワクチン接種適齢期推定法の構築と実用

桑田桂輔（岐阜県中央家畜保健衛生所）、他
〔選考理由〕 豚熱（CSF）ワクチン接種では、移行抗体の有無によって子豚にワクチンテイクやブレイクが起こるため子豚への接種時期が重要である。本研究は、ELISAによって接種豚の抗体価を測定し、移行抗体の減少率から接種時期を推定するためのモデルを作成して適期の決定方法を検討したものである。予測精度を検証し、実際に現場で活用するなど有用な知見を示していることから、獣医学術学会賞に相応しい研究として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

乳牛の代謝プロファイルテストを主体とする
生産獣医療技術の確立ならびに臨床現場への普及

木田克弥（帯広畜産大学・客員教授）

〔選考理由〕 木田克弥氏は、乳牛の代謝プロファイルテスト（MPT）に関する研究や生産病に関する研究に取り組み、MPTが野外における飼養管理指導に有用であることを明らかにし、多くの研究成果を学術雑誌に公表した。また、現在でも帯広畜産大学産学連携センターの客員教授を務めるなど、獣医学術の発展と後進の指導に尽力している。さらに同氏は、日本獣医師会の各種委員会委員、日本産業動物獣医学会の理事や幹事、獣医学術北海道地区学会の学会長として、本会と本学会の運営に多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した。

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

小動物整形外科用骨プレートを用いて
外科的矯正術を行った漏斗胸の猫5例

草場祥雄（室見動物病院）、他

〔選考理由〕 本論文は、先天性奇形である漏斗胸の猫に対し、従来の外科的手術方法に比べて簡便かつ侵襲性の少ない方法を考案し、その有用性を明らかにした。これらの結果は、今後の猫の先天性漏斗胸治療の発展に極めて有用な情報提供であると思われることから、本論文を獣医学術奨励賞に推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

DMD 遺伝子におけるフレームシフト変異が同定された トイ・プードルの筋ジストロフィーの1例

酒居幸生（大阪府立大学），他

〔選考理由〕 本研究はこれまで報告のないトイ・プードルの筋ジストロフィーの発生を報告したもので，全ゲノムシーケンス解析の結果，ジストロフィン欠損の原因となる DMD 遺伝子変異を同定した．さらに，この遺伝子変異は犬で報告のない1塩基挿入であることが明らかとなった．今回の発表により，国内で飼育されているトイ・プードルでキャリアが存在している可能性が示唆され，本研究結果を応用した1塩基挿入の検出技術は今後の筋ジストロフィー診断やキャリア検出に臨床的に大いに役立つと考えられる．以上のことから，本研究を日本小動物獣医学会学術学会賞に相応しい研究として推薦する．

〔獣医学術功労賞〕

高齢動物疾患の比較病理学的研究

中山裕之（東京大学・名誉教授）

〔選考理由〕 中山裕之氏は，長年にわたり人を含むほ乳類，鳥類，爬虫類，両生類，魚類など多岐にわたる動物の病気について，特に中枢神経系疾患を中心に比較進化の観点からの研究を遂行し，これらの成果は400編余りの学術論文・著書として発表してきた．さらに，東京大学において40年の長きにわたり獣医病理学の教育を担い，わが国の獣医病理学の発展に大いに寄与してきた．また，日本獣医学会理事長をはじめ多くの学会や専門委員会の役職をなされ，さらに日本獣医師会の学術・教育・研究委員会副委員長，国際交流推進委員会委員を歴任されるなど日本獣医師会の学術活動や運営にも多大な貢献をされたことから，獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した．

〔公衆衛生部門〕

〔獣医学術奨励賞〕

山形県内マダニのマダニ媒介感染症病原体調査

瀬戸順次（山形県衛生研究所），他

〔選考理由〕 本論文では，山形県内で採取された植生マダニ成虫158匹及び野生動物由来マダニ成虫112匹

についてリケッチア遺伝子を調査し，ヒトツトゲマダニ30匹及びヤマトチマダニ1匹から *Rickettsia helvetica*，タネガタマダニ1匹から *Rickettsia monacensis* の遺伝子を検出した．これらは，いずれも国内で未報告のリケッチア遺伝子であり，山形県のみならずわが国のマダニ媒介リケッチア感染症の疫学を解明する上で重要な知見を含んでいると判断されたことから，獣医学術奨励賞として推薦する．

〔獣医学術学会賞〕

SFTS 感染ネコの周辺環境におけるマダニ相とウイルス叢の調査並びに植生マダニの駆除とその効力評価

木村俊也（愛媛県食肉衛生検査センター），他

〔選考理由〕 本研究は，ダニ媒介性人獣共通感染症である重症性血小板減少症候群（SFTS）の患者発生地域において，本症を発症した猫の当該ウイルス抗体並びに遺伝子検査を継続的に実施するとともに，周辺地域のマダニとウイルスの分布調査を行っている．さらに，マダニの駆除を地元住民，行政機関，関係団体，大学等で演習という形で実施し，その数を確実に減少させている．その成果は，対象地域における SFTS の疫学解明並びに防遏に大いに貢献することが期待されることから，獣医学術学会賞に相応しい研究として推薦する．

〔獣医学術功労賞〕

動物の常在細菌とその農場での生態および 食肉への汚染に関する研究

関崎 勉（東京大学・名誉教授）

〔選考理由〕 関崎 勉氏は，重要な人獣共通感染である豚レンサ球菌症の原因菌 *Streptococcus suis* の再分類を行い，新たな2菌種を提唱するとともに，*S. suis* を正確に同定できる PCR 法，LAMP 法，real-time PCR 法を開発した．さらに，開発した LAMP 法により，*S. suis* の豚肉（精肉）の汚染は，内臓肉を汚染源として食肉加工場で起こることを明らかにした．これらの成果は，多くの新知見を含んでおり，食肉衛生並びに公衆衛生に資する研究であると思われる．また，関崎氏は学術雑誌編集委員，家畜衛生委員会委員，家畜衛生・公衆衛生委員会委員として，日本獣医師会の活動に多大な貢献をされた．以上の功績から，同氏は「獣医学術功労賞」を受賞するに相応しいと判断した．